

7月4日

胆沢城の理解を深める
講座開催

イベント



市埋蔵文化財調査センターが主催する鎮守府探訪講座（全5回）が始まりました。初回は、同センター大堀専門学芸員が「胆沢城の新資料－女性ばかりの『歴名簿』－」と題して講演。同城跡から昭和58年に見つかった「第34号漆紙文書」に隠された謎について、講師が解説を加えながら読み解きました。

7月4日

真夏の空へ打ち上げる
手作り水ロケット

イベント



日本宇宙少年団水沢Z分団（亀谷収分団長）は、定例活動「目指せ！水ロケットチャンピオン!!」を胆沢陸上競技場で開催しました。この日は小中高生26人が参加し、それぞれが工夫を凝らし作製した水ロケットを一番遠くへ飛ばすことができるかを競争。活動を通し子どもたちは、科学の楽しさを再確認していました。

7月5日

菊地榮作さん 100歳
（前沢生母）

百寿



前沢生母で生まれ、故・トモエさんと結婚。1男1女をもうけ、孫6人、ひ孫10人に恵まれています。旧前沢町役場に勤務し、退職後は土地家屋調査士として88歳まで勤められました。長寿の秘訣は、食事を残さずよくかんで感謝しながら食べること。「みんなと会話するのが楽しい」と笑顔で話していました。

7月10日

無農薬の田んぼで暮らす
小さな生き物を調査

イベント



奥州めぐみネットでは、江刺愛宕の自然栽培の水田で生物調査を開催しました。30人の親子らが参加し、水田などで採取した生き物や水を顕微鏡で観察。水沢南小学校5年の土谷唯翔さんは「知らない虫がいたり、そのままでは見えない微生物が顕微鏡で見えたりして楽しかった」と満げに語りました。

7月10日

市川正治さん 100歳
（水沢字高屋敷）

百寿



水沢立町で5人きょうだいの三男として生まれ、25歳頃に定子さんと結婚。息子1人と娘2人をもうけ、孫4人、ひ孫8人に恵まれています。旧水沢市役所に勤務し、退職後は水沢児童センター館長を務めました。海外旅行が好きで、特にパリには何回も行ったことが思い出深いと語りました。

7月10日

千葉豊蔵さん 100歳
（江刺岩谷堂）

百寿



花巻市で生まれ、24歳の時にヒサ子さんと結婚。娘2人をもうけ、孫5人、ひ孫2人に恵まれています。高校の教師だった豊蔵さん。俳句が趣味で、過去には日本一になったことも。長寿の秘訣は、何でもよく食べること。当日は盛岡に住む娘さん夫婦も駆け付け、豊蔵さんは「ありがとうございます」と感謝を伝えました。

7月11日

観客を魅了する
華麗なメロディー

イベント



奥州ジュニアオーケストラスクールミニコンサートが胆沢文化創造センターで感染症対策を取った上で開催されました。市内の小学1年生から高校3年生の約20人が日頃の練習の成果を発表。「キラキラ星変奏曲」や「カノン」など15曲が演奏され、観客たちはホールに響き渡る深い音色に静かに耳を傾けました。

7月16日

齋藤實の私設図書館が
国の文化財へ

市政



第30代総理大臣齋藤實が生家跡に建てた私設図書館「齋藤子爵水沢文庫と図書閲覧所」が、国の登録有形文化財になる見通しとなりました。私設図書館は、齋藤實がふるさとの子弟たちのために建てたものです。今後は官報に告示され正式に登録される予定で、市内の文化財登録は7、8件目になります。

7月19日

子ども食堂の取り組みに
向けた連携協定結ぶ

市政



市は、(株)モリレイ（岡村 弥代表取締役社長）と市社会福祉協会（田面木茂樹会長）と三者で「子ども食堂の支援に向けた連携協定」を締結しました。業務用食品卸をする同社は、SDGsの取り組みで子ども食堂への食材提供を支援。岡村社長は「多くの子どもたちへ笑顔届けられるよう取り組んでいきたい」と語りました。

7月25日

水の郷でにぎわいを見せた
夏の祭典

イベント



第8回いさわ水の郷夏祭りが胆沢文化創造センターで感染対策を徹底し、開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止を余儀なくされた同祭典。ステージには胆沢中学校吹奏楽部や前谷地神楽保存会、奥州水沢颯人と太鼓乃会らが出演。2年ぶりの開催に多くの観客でにぎわい、盛り上がりを見せました。

7月28日

南部鉄器風鈴の音色で
大谷選手を応援

イベント



大谷翔平選手ふるさと応援団はJR水沢江刺駅と水沢駅に設置している風鈴に大谷選手への応援メッセージを書いた短冊を取り付けました。これは、同団体が募集した新規応援活動を実現化したもので、アイ・ベスト(株)が考案したアイデアになります。ふるさとの音色に乗せて、応援のメッセージを大谷選手へと届けていきます。

7月29日～31日

体験を通して
思いやりの心育む

イベント



夏の恒例行事「寺子屋」（水沢南地区寺子屋実行委員会主催）が、水沢南地区センターを会場に開催されました。寺子と呼ばれる小学生と、行事の企画・運営を担う中高生リーダーが交流を深め、相手を思いやる心を育むことを目的に開催しています。寺子たちは、リーダー指導の下、工作などを楽しみました。